

【花き】の【降灰】対策について

＜通年＞

農業経営支援課

（１）予想される被害状況

施設内の光線量不足による生育不良（開花遅延、ブラスチング）
作物への灰の付着による品質低下
被覆資材の損傷

（２）事前対策

桜島、霧島山系、阿蘇山等、活動が活発になっている火山の影響下にあり、一旦噴火が起こると県内各地で被害が発生する可能性があるため、遮光ネットの準備やブロワー・動力噴霧機等の点検を行っておく。

内ビニールを利用しない品目については、谷部からの火山灰の侵入による作物への付着を防ぐために、事前に部分的にフィルムを張る等の対策を行う。

（３）事後対策

【施設園芸共通】

- ① ビニルハウス等の被覆資材に付着した火山灰は、速やかに除去する。
（注）高所での作業の際には、転落事故が起きないように十分注意する。
- ② 噴石等によって破損したビニル等の被覆資材は、速やかに補修を行う。
- ③ ハウス内の光線透過量は、被覆資材面に $100 \text{ g} / \text{m}^2$ の降灰があると約 30% の光量に、また、 $200 \text{ g} / \text{m}^2$ の降灰で約 20% の光量となる。
- ④ 被覆資材面の除灰には、動力噴霧機による高圧ノズル（鉄砲ノズル等）を利用した洗浄が最も効果的である。
（下記、《火山灰の除去対策》を参照）
- ⑤ ハウス谷部の火山灰堆積が多い場合には、ハウス内部への火山灰の流入の可能性や、巻き上げ部の埋没等により換気ができなくなることがあるので、谷部の除灰作業を優先する。
- ⑥ 被覆資材面に残る微細な火山灰は、洗浄しても落ちないため、できるだけスポンジや布等を利用して、傷つけないよう注意して拭き取る。

《火山灰の除去対策》

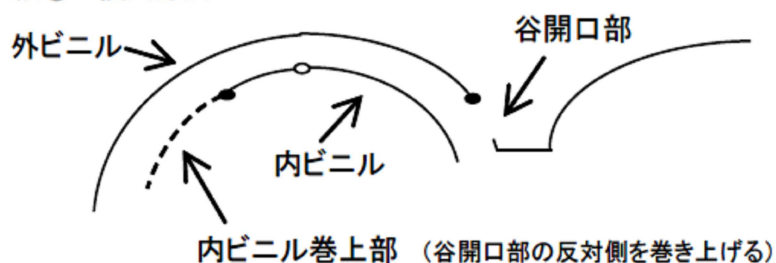
- ① 火山灰の堆積が多い場合は、ブロワーを利用し、風圧で積灰量を減らした後に、動力噴霧機による水を使った高圧洗浄を行う。（ブロワーを使用する際は、周囲への飛散に注意する）
- ② 火山灰堆積が多く、降灰が続く場合は、ブロワー等で適宜除去を行い、降灰が治まった後、高圧洗浄を行う。
- ③ 堆積の少ない場合は、直ちに高圧洗浄を行う。
- ④ 洗浄後も火山灰が被覆資材表面に残り、光線透過量の低下により作物の生育に悪影響を及ぼす場合には、資材を傷つけないように注意しながら、寒冷紗など柔らかな素材で払い落とす。

- ⑤ ハウスの被覆資材面の除灰作業に多量の水を使用する場合は、ハウス内外の排水に留意する。

《降灰時のハウス内管理》

- ① 天井及び谷部に堆積した火山灰が、直接作物に付着しないようブロー一等で除去した後、谷部及びサイドビニルの開閉を行う。
- ② 9月頃の定植期以降10月まではハウス内が高温となるため十分な換気を行うが、降灰により換気ができない場合は、日中の遮光ネット被覆等によりハウス内温度の低下を図る。
- ③ 堆積火山灰の除去ができない場合は、ハウスサイド部の開閉で温度調節する。
- ④ 谷部開閉を行う場合には、谷開口部側の内ビニルは開かず、火山灰のハウス内への侵入による作物への付着を防止する。(下図参照)

図) 上記③の換気方法



【露地花き共通】

- ① 火山灰が長期間付着すると障害が発生する恐れがあるので、ブローや動力噴霧機及びスプリンクラー等による散水によって速やかに除去する。
- ② 払い落としや散水を行う際には、茎葉を傷めない程度の風圧・水圧に注意する。
- ③ 火山灰が残らないよう、十分な水量で洗い流す。
- ④ キクの母株等については降灰量が多いと、穂の品質に影響があるので簡易なトンネル被覆等を行い、植物体への付着をできるだけ防ぐ。
- ⑤ 降灰や除去作業で作物に傷がつき、病原菌が侵入する恐れがある場合は殺菌剤を散布する。
- ⑥ 収穫物は灰の付着を十分確認し、選別する。